

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270203088		
法人名	有限会社 西風会		
事業所名	グループホームゆたんぽ・喜笑 ユニットゆたんぽ		
所在地	佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組み、個々の変化、経過について職員間で常に話し合いを行っております。 ・ご利用者様同士の繋がりも重要と捉え、関係性も重視した取り組みを行っております。 ・ご利用者様が安心して暮らすことができる家庭的な雰囲気のあるホームづくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「利用者の能力を最大限に発揮できるようにつとめます」を基に、全職員が一丸となって取り組んでいる。職員が理念を理解している事例として、骨折で自立歩行は困難と診断された利用者が、現在手引き歩行まで回復し、日々生き生きと暮らしている。また、利用者の「一人で歩きたい」との強い希望を、家族、職員が本音で話し合い実現できた事例もある。家族との信頼関係や職員のチームワークの良さが事業所の強みである。利用者の思いを大切に、自分らしい生活が出来るよう日常から利用者同士が思いやり助け合う等、家庭そのものである。普段から近くの商店までの散歩を兼ねた買い物やドライブ、外食など楽しみ事も多く、個別支援に力を入れた取組みは利用者の活き活きた表情に繋がっている。利用者が遠慮せず、介助を求めることができる信頼関係があり、温かみのある事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の能力を最大限に発揮できるように努力している	開設当初に作られた「利用者の能力を最大限に発揮できるように、地域に開かれた地域住民の一員として生活できるように支援します」との理念は、目につく場所に掲示している。職員は利用者の日々の暮らしの中で、その人らしい生き方や家族との繋がりを大切にしよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内清掃に参加したり、神社への奉納にてお餅を持って来られたり、地域のお店に買い物に行ったり、散歩等で交流している	職員は利用者と一緒に、町内会の一員として清掃活動や草取りに参加している。地域の祭りや文化祭などの行事案内を受け、利用者とは出向いて楽しんでいる。近所より野菜や果物の差し入れもある。食材を地域の商店で買い物したり、散歩時に挨拶を交わすなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族やご近所、地域包括支援センター職員の方々に参加していただき、報告や話し合い、意見をいただき、サービス向上に活かしている	年6回の開催である。規定の参加者で、事業所の取組み状況等や会議の内容が詳細な議事録から確認できる。家族代表はを1年交代であり、様々な意見の抽出に努めている。災害避難時に家族が迎えに来所し、利用者が帰宅出来る家族の確認ができたことは、利用者の安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には直接、出向いたり、電話で情報交換等を行い、関係を築くようにしている	介護保険の更新や申請時、相談などで支所に出向き、顔なじみの職員に対応依頼することが多い。市から避難時の調査アンケートに応じたり、研修会の案内等があれば交代で受講している。福祉課職員の訪問もあり協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、講習会への参加。社内研修にて理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催しており、再度、認識するように努めている	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開き、身体拘束のないケアが原則である。外部研修会には、職員が交代で参加し、内部研修で職員全員が情報共有している。言葉による拘束には特に気を配り、寄り添う会話で帰宅願望が落ち着いた利用者もいる。玄関の施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、講習会への参加にて学ぶ機会を得ており、虐待が見過ごされることがないように注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会への参加を行っている。他のユニットでは実際に制度を利用されている利用者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は十分な説明を行い同意をいただくようにしている。改定の際は家族への説明を行い理解、納得をいただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気兼ねなく話ができるような雰囲気づくりを心がけている	契約時、外部相談窓口や苦情処理体制の説明している。家族がなんでも話せるよう信頼関係づくりに注力している。また、敬老会に併せて家族会を開き、家族が意見を出しやすい場を設けている。家族からは、個別支援内容についての要望が主であり、訪問時や電話で受けることが多い。受けた内容は、職員間で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとのスタッフ会議にての意見、管理者会議を含め、必要に応じては随時、代表に届け、反映させている。(設備や人事異動なども含む)	全体会議やユニット会議、日頃から管理者は職員の意見や提案を聞いている。事業所の様子は、管理者会議で代表へ報告している。代表は、年1回職員と個人面談し、職員の思いや提案を聞いている。希望休取得、備品の購入など、職員の意見を汲んでいる。また、職員の提案で、車椅子の利用者が使いやすいよう洗面台を改修している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や得意分野に目を向けて、責任とやりがいを持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習、講演会への参加の機会を与えており力量によって受講を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域ケア会議や研修等への参加にて交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人が、今、困っていること不安と 思っていることなど感知するように努めており、 安心を得られるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	穏やかで家庭的な雰囲気作りを心がけること で信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を見極めるためにも話しやすい 雰囲気づくりを行い、日頃の様子も伺いながら意見 を反省させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係は築けている。共に作業を行ったり 教えてもらいながらの家事作業もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族による外出支援、必要時には病院の付き添い等、共に 本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行っている。外出の際、家の付近を通ることもある。知人の面会も気兼ねなく来所できるよう対応している。	利用者台帳に生活歴を記載し、職員は情報共有しており、馴染みの美容室や買い物には職員が付き添っている。仏壇の花や供物の他、学習など個別の日課を継続している。介助方法や職員のサポートを伝え、家族が安心して利用者と外出できることで、馴染みの場や人との関係継続に注力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や個々の能力を把握し支えあえるような関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院された場合には面会に行っている。家族へも相談事があったら気兼ねなく電話いただくよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、会話の中で本人の意向や希望に沿うように努めてる	職員は、リビングや居室などで利用者がリラックスしている時に思いを聞き取り、意向の把握に努めている。職員が利用者のわかりやすい単語を使って声掛けすることで、利用者が自分の思いを、言葉や表情で表している。汲み取った情報は、生活記録に記入し職員間で共有すると同時に、本人本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、又、以前サービスを受けられたところなどより話を聞き把握に努めてる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・見守りにて得た情報を共有し、誰もが現状を把握するように努めてる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、又、以前サービスを受けられたところなどより話を聞き把握に努めてる。関係者と話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	長期、短期の目標設定があり、本人、家族等の要望を聞き取り、6ヶ月ごとに見直しを行っている。本人の残存機能が低下しないよう、具体的なチェック項目と詳細な記録があり現状に即した計画を作成している。入退院後は即見直しを行っており、本人、家族等に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日、記入し見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じボランティア等の地域資源を活用し、また協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応していただける協力医療機関があり定期的受診、必要時には往診を行ってもらっている。また、本人、家族の希望に応じてかかりつけ医の受診の支援を行っている	以前からのかかりつけ医の受診や往診もあり、受診時は主に職員が同行している。遠方の病院は家族等が付き添い、受診結果は双方で情報共有している。また週1回、訪問看護師の体調チェックもある。夜間急変時には、協力医や訪問看護師との連携体制で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり訪問看護が週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。その際、身体の変化や気づきを伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、又、電話にて情報交換を行っている。かかりつけ医と普段より相談し、そうした場合に備えての関係作りを行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している	重度化した場合や看取りに関する指針があり、入居時に説明し同意書を得ている。段階を踏んで本人、家族、医師、職員が話し合い、要望があれば指針に沿って看取り支援がある。自宅へ帰りたい希望も、医師との連携を取りながら取り組んでいる。重度化など状況に合わせ、職員は支援内容について勉強会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、救命講習を受講している。社内研修にて、発生時の初期対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回、消防訓練を行っている。そのうち、1回は消防署の指導を受けている。自主監査にて毎日チェックしている。また、非常災害時避難訓練も行っている。	昼夜想定で消防訓練を年2回実施し、内1回は消防署立会いがある。原発による非常災害時避難訓練も実施し、全員圏外の避難先まで移動し様々な気づきが把握できている。毎日の自主点検も行い、緊急持ち出し品や備蓄もある。ただし訓練時に近隣住民や家族等の参加が無い。	近隣住民や家族等に災害時の応援を依頼し承諾を得ているが、実際の訓練の様子を見学してもらい、どのような手助けや注意が必要なのか把握するためにも今後、近隣住民や家族等の協力が得られる取組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや会話での言葉遣いなど十分に注意、配慮しているが、職員間での気づきに反省や見直しを行っている	トイレ誘導時の言葉遣いは、羞恥心に配慮している。失敗時も、さりげなく対応している。利用者の気持ちを考え、自己決定しやすいように努めている。個人の書類は、事務所で管理している他、個人情報の取り扱いや写真使用の同意書は、契約時に作成している。職員には倫理規定・個人情報保護の内部研修にて周知を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示、自己決定ができるような声かけや言葉選びをするように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては安全性を優先して職員のペースになることもあるが、一人ひとりのペースを大切にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の購入時やその着用する服を一緒に選んだり馴染みの美容室に行けるよう支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた準備を行っている。好みや何を欲しているか問いかけを行っている	家族や近所から食材の差し入れがあり、旬を取り入れている。食材と一緒に買い物に出かけたり、下準備を手伝ってもらうなど、利用者が家事を楽しむよう支援している。全利用者で外食するため、下準備を行い実現している。誕生日は利用者が食べたい献立を取り入れたり、季節行事に合わせた献立を考え、食事を楽しむ工夫が豊富である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して確保できるよう支援しており、状態に応じた支援を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた声かけや見守り、準備、清潔保持の支援を行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個々に見極め、排泄の声かけや誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている	事業所ではトイレでの座位排泄を支援している。排泄チェック表を作成している。パッドサイズや自立した利用者の見守りなど、個別に介助方法を検討している。尿意がない利用者には、時間を決めて誘導することで、リハビリパンツから布パンツとパッド使用になった事例がある。利用者が不安にならない排泄支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状態を把握し飲食物の工夫にて便秘予防に取り組んでいる。必要に応じ、服薬にてコントロールも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ、入浴日程を予定しているが体調や希望に対応できるように努めている	週3回、入浴支援している。入浴介助、脱衣担当の職員を配置し、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴順は、利用者の様子を考慮し職員が、声を掛けている。入浴剤を利用したり、好みのシャンプーを使用している。体調に配慮しており、現在入浴拒否する利用者は居ず、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人に合わせてあり、状況や本人希望により、自室で休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に薬の処方を記録しており、変更も伝達している。服薬の支援を確実に行的症状の変化の情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、個人の力を活かした支援を行っている。気分転換等を図り外出や散歩も取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、文化祭やおくんち見学等、外出支援を行っている	利用者の希望や天候に配慮しながら、周辺の散歩や近所の店におやつを買いに出掛けたり、ドライブしている。車椅子の利用者も座席に座って、ドライブを楽しんでいる。祭りや地域行事の見学、季節の風景を楽しむなどみんなで外出する機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は所持され使えるように支援している。希望や力に応じ使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態に応じて電話をかける機会の支援をしており、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、季節の花を飾ったり、浴室、脱衣室の温度差にも気をつけている	リビングの照明も程よく、換気や掃除も行き届き清潔で臭気も無い。掃除機やモップ掛けを行う利用者もいる。行事等の写真や手作りの作品を壁に飾り、ソファや椅子でゆっくり寛ぐ人、算数ドリルに熱中する人など思い思いに過ごしており、キッチンで職員が調理する音や匂いが家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中心に全員のソファを配置している。食卓、玄関に椅子を配置しており、自由に行き来きされ、思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家具を使用していただき愛着のある物を飾ってもらい居心地良く過ごせるように支援している	居室はフローリングで、ベッドや物品は全て持ち込みである。仏壇、マリア像、ソファや椅子、整理棚など様々な家具があり、ひ孫からの手紙や木目込み人形などの手作り作品を飾り、居室の雰囲気は個性的である。陽当たりもよく、読書やテレビ鑑賞など居心地よく過ごせる自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札、トイレは大きく表示している。又、床にテープを張り、通路をわかりやすくし、それを利用されている。手すりを設置しており、安全かつ自立した生活ができるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270203088		
法人名	有限会社 西風会		
事業所名	グループホームゆたんぽ・喜笑 ユニット喜笑		
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	平成30年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組んでいます。その人らしく、当事業所で役割を持ち、楽しみを持ち、生き活きた笑顔と喜びのあるホーム生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームゆたんぼ・喜笑 ユニット喜笑
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、更に、理念に基づいたケアの具体的な話し合いのもと、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加したり、買い物に出かけたりしている。ご近所より農作物をいただいたりし、交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れにより、理解や支援の方法を活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行っている。意見をいただいた時は事業所として話し合いを行い解決の方へ進めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接、出向いたり、電話で相談等を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを行っている。正しく理解するため、勉強会を行っており、会議でも取り上げ、話し合う機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が学ぶ機会をもち、虐待が見過ごされることがないように注意を払っており、職員全員が防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でも取り上げ、制度の理解を深めている。知識を持っている者が話をする機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用しているよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者に十分な説明を行っている。不安や疑問点を尋ね、理解と納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を尋ねる機会がある。話されやすい雰囲気づくりを行っており、意見箱も設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を管理者会議にて話し合い、代表者に届けており、直接、話す機会も設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や他の研修にて交流を図り、情報交換も行って、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、奥に隠されている部分も引き出せるよう努力し、安心を得られるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと要望等に耳を傾け、当事業の雰囲気も感じてもらい、笑顔で接し、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極める為にも、本人、家族より、より多くの情報を得るようにしており、話しやすい雰囲気づくりも行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え、支えられる関係で、お互いに学び、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、又は電話連絡、ホーム便りにて、日常生活の状況を報告し、家族にも病院受診などの支援をいただいていることもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行っている。外出の際には、馴染みのある地域を通ったり、その目的にてドライブしたり、買い物支援も行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味、又、能力を把握し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事があれば、いつでもと伝えてある。他の施設や入院された場合には面会に行っており、関係性を大切に思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、会話や話しかけにより、本人の意向や希望を把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前にサービスを受けられていたところより、聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、日々、観察を行い、職員間で情報を共有し、現状を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録より、本人に現況を把握し、意見やアイデアを反映できるよう努め、本人がより良く暮らすための介護計画作成を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日記入し、実践や見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域資源の新しい情報を得るようにしており、必要に応じ、協働し、支えて暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、新しい病院先でも事業所との関係を築くように行っており、適切な医療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを契約を結んでいる。週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。変化や気付いたことを相談し、助言もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるように病院関係者との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全ての職員が受講しており、定期的に再受講も行っている。勉強会でも取り上げ、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練により、避難訓練、消化、通報訓練を行っている。また、災害での避難場所への避難訓練も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えた声かけや対応をしている。納得され、自己決定しやすい対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりと対話する機会を設け、その中で思いや希望を聞くことができおり、自己決定できるような声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいや外出したいとの一人ひとりペースや希望を天候や体調を見計らいながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の化粧や外出着におしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。普段の身だしなみにも心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺ったり、食べたい物を尋ねたりして、皮むきや調理、洗い物など、能力やその日の気分を考えてみて一緒に行っている。又、誕生日やイベント料理で目先の変わった食事にて大変喜ばれている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた形態や量が摂れるよう支援しており、状態変化も職員間で把握し、バランスよく提供できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、取れでの排泄を大切に考え、声かけや介助し、自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動及び腹部マッサージ等、職員間にて話し合っており、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態や希望に沿って入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた就寝時間で、好きなテレビ番組等がある時など時間に変更もあり、日中、なるべく活動していただき、空調にも気を配り気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間にて話し合うようにしている。変更及び症状変化の情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、作業手伝い、パズル、編み物、又、気分転換の散歩、ドライブ、買い物と多岐に亘り一人ひとりの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食や外出の支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は所持されており、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを出されたり、自ら電話をすることができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	証明や採光、室温、風当たり等、十分に配慮している。野草、花などで季節感を味わってもらい居心地よく過ごせるような工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを配置しており、そのソファや外景色の見える所やテーブル席で独りになり好きなように過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を配置しており、本人の気持ちがよく安堵される居室空間であるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレは名札を表示しており、ベッドやトイレ、ホールに手すりを配置し、夜間ポータブルトイレも使用し、自立を支援している		